

白藍塾オリジナル

2017入試小論文分析&解答のヒント

2017年4月発行

白藍塾の入試小論文分析は、他の予備校と違って、その問題に対して受験生がどのようにアプローチすればよいのかを具体的に説明している。そのため、この分析を参考にすれば、誰でも合格レベルの答案を書けるはずだ。該当の大学・学部の志望者は、ぜひ、これを読んで、自分で実際に答案を書いてみてほしい。

執筆・大原理志

●早稲田・スポーツ科学部

今年度は、課題文を読んで自分の考えを論じるという、例年通りのオーソドックスな形式に戻っている。

課題文はわかりやすい。スポーツにおける男女平等が進む一方で、男女の待遇差が依然として残っている現状を説明し、その背景に女子スポーツの人気の伸び悩みがあることを指摘している。

ポイントは、女子スポーツが男子スポーツに比べて人气が劣り、その分スポンサーが集まりにくいという点だろう。つまり、スポーツの商業主義化を進めようとする、どうしても男女の待遇差が残ってしまうわけだ。

問題提起は「スポーツにおける男女平等をもっと進めるべきか」などでよいが、論点としては、そうしたスポーツの商業主義化の問題を踏まえて考えるべきだろう。

イエスで書く場合は、「オリンピックは本来利潤を追求する場ではない。参加することに意義がある以上、男女の待遇差はあってはならない」「女子スポーツに注目が集まりにくいのは、根底に男女差別があるからだ。男女差別を撤廃して、女子スポーツを振興させれば、スポーツ界全体の底上げにもつながる」などが考えられる。

ノー、つまり「必ずしも男女平等である必要はない」という立場で書く場合は、「スポーツの商業主義化が現実に進んでいる以上、ある程度男女に待遇差があるのはやむを得ない。無理に男女平等を進めようとして、スポーツ・ビジネスが成り立たなくなるのは、スポーツ界全体にとってよいことではない」などが考えられる。

いずれにせよ、課題文を的確に理解して、論旨を外さなければ、それほど難しい問題ではないはずだ。

◎執筆者の許可なく本紙の全部もしくは一部を無断転載、無断複写することを固く禁じます。